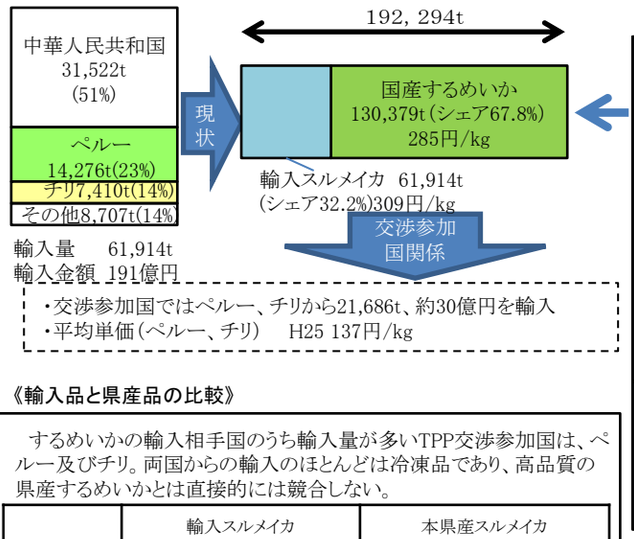
TPP協定の大筋合意内容と本県農林水産業に与える影響イメージ（たたき台）⑨＜漁業＞

山形県における漁獲量10位までの魚種とTPPの関係

	①するめいか	②まだら	③たい類	④べにずわい	⑤はたはた	⑥ぶり・いなだ	⑦さけ・ます	⑧いわがき	⑨ほっこくあかえび	⑩さわら
漁獲量（トン）	2,540	439	428	397	343	226	221	138	121	97
生産額（百万円）	800	132	280	92	104	38	74	83	135	85
現行関税率（%）	生鮮・冷凍 5%	生鮮10% 冷凍6%	生鮮・冷凍 2%	生鮮・冷凍 4%	生鮮・冷凍 3．5%	生鮮・冷凍 110%	生鮮・冷凍 3．5%	生鮮・冷凍 7%	生鮮・冷凍 1%	生鮮・冷凍 3．5%
撤廃時期	段階的に11年目	段階的に11年目	即時	即時	即時	段階的に16年目	さけ：段階的に6年目 ます：段階的に11年目	即時	即時	段階的に11年目
現在の輸入単価（円/kg）	137	292	-	-	-	-	410	-	1,246（エビ類）	-

上記魚種のうち、影響が懸念される3魚種の分析

するめいかのマーケットイメージ（H25をベースに整理）



輸入量　61,914t
輸入金額 191億円

・交渉参加国ではペルー、チリから21,686t、約30億円を輸入
・平均単価（ペルー、チリ）　H25 137円/kg

国内産生産量 130,379t
国内産生産額 514億円

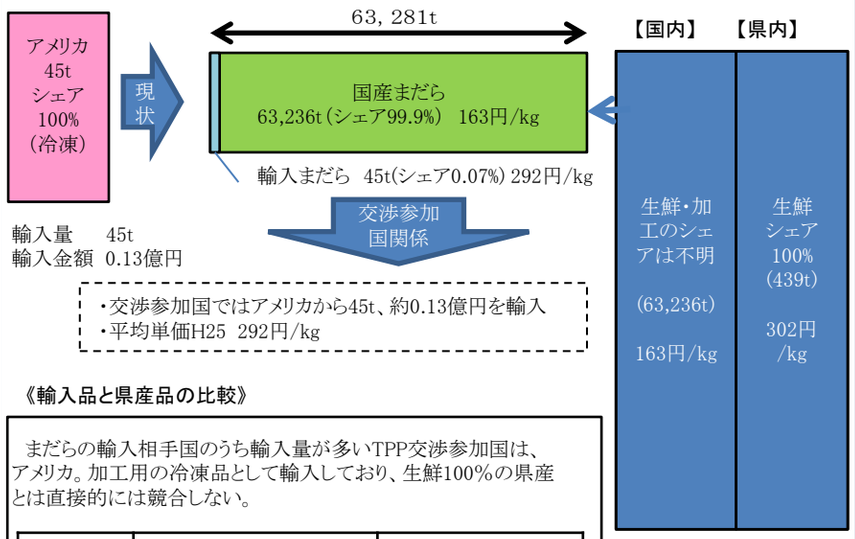
県内産生産量 2,540t
県内生産額 8億円

《輸入品と県産品の比較》

するめいかの輸入相手国のうち輸入量が多いTPP交渉参加国は、ペルー及びチリ。両国からの輸入のほとんどは冷凍品であり、高品質の県産するめいかとは直接的には競合しない。

	輸入スルメイカ	本県産スルメイカ
単価	137円/kg	315円/kg
利用形態	加工品用 （乾燥・薫製・調味珍味加工、塩辛、焼き物、フライ、天ぷら、和え物、漬物、すり身等惣菜やスナック菓子、冷凍食品、レトルト、カップ麺の具材等）	生鮮44%・加工品48%・餌8% ※加工品は、一夜干し、塩辛の原料として利用されており、輸入スルメイカの用途とは異なっている。
マーケット	加工品用	加工品用、家庭用、業務用

まだらのマーケットイメージ（H25をベースに整理）



輸入量　45t
輸入金額 0.13億円

・交渉参加国ではアメリカから45t、約0.13億円を輸入
・平均単価H25 292円/kg

国内産生産量 63,236t
国内産生産額 103.1億円

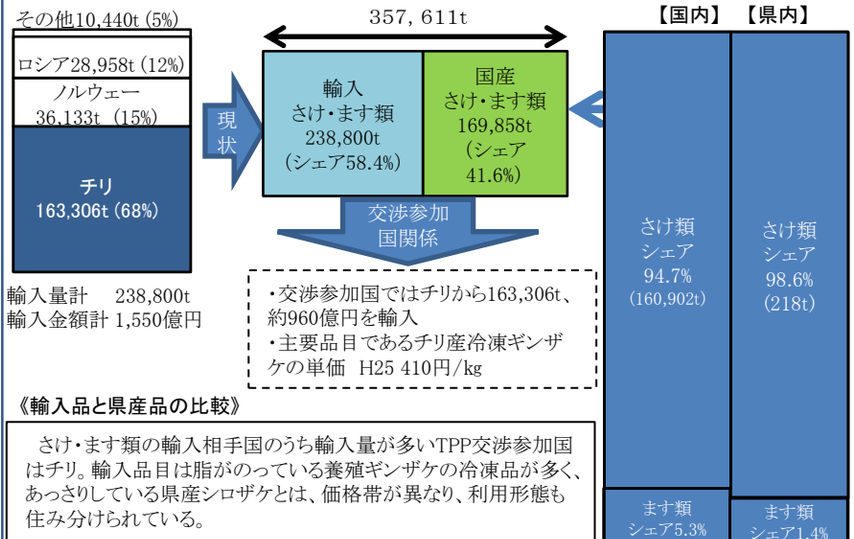
県内産生産量 439t
県内産生産額 1.32億円

《輸入品と県産品の比較》

まだらの輸入相手国のうち輸入量が多いTPP交渉参加国は、アメリカ。加工用の冷凍品として輸入しており、生鮮100%の県産とは直接的には競合しない。

	輸入マダラ	本県産マダラ
単価	292円/kg	302円/kg
利用形態	加工品用 （すり身、かまぼこ、乾物、塩蔵）	鮮魚 ※ほとんどが鮮魚、わずかがフィレに利用されるのみ
マーケット	加工品用	家庭用、業務用

さけ・ます類のマーケットイメージ（H25をベースに整理）



輸入量計　238,800t
輸入金額計 1,550億円

・交渉参加国ではチリから163,306t、約960億円を輸入
・主要品目であるチリ産冷凍ギンザケの単価　H25 410円/kg

国内産生産量 169,858t
国内産生産額 722億円

県内産生産量 221t
県内産生産額 0.81億円

《輸入品と県産品の比較》

さけ・ます類の輸入相手国のうち輸入量が多いTPP交渉参加国はチリ。輸入品目は脂がのっている養殖ギンザケの冷凍品が多く、あっさりしている県産シロザケとは、価格帯が異なり、利用形態も住み分けられている。

	輸入冷凍ギンザケ	県産シロザケ
特　徴	養殖物、脂がのっている	天然物、あっさりしている
単　価	410円/kg	311円/kg
利用形態	刺身、塩蔵品	生サケ(調理用)、塩蔵品
マーケット	加工用、家庭用、業務用	加工用、家庭用、業務用

関税撤廃の影響イメージ

本県の主要魚種	するめいか （ＴＰＰ交渉参加国からの輸入実績あり）	県産するめいかは鮮度もよく、高品質の生鮮品として取り扱われており、輸入品との住み分けができているため、これまでどおりのマーケットで推移していくと考えられるのではないか？輸入品が既に３割を占める中、安価な輸入品に引っ張られてするめいか全体の価格が引き下がる影響をどうみるか？
	まだら （同上）	輸入量が占める割合は現時点で0.1%もなく、利用形態も国内需要を満たすための加工用として利用されている。このため、これまでどおりのマーケットで推移していくのではないか？
	さけ・ます類 （同上）	輸入品が国内流通の半分以上を占めているため、チリ産のギンザケの価格低下に伴い、サケ全体の価格低下の懸念をどうみるか？チリ産ギンザケと県産シロザケでは、価格・用途が異なっており直接の影響は小さいのではないか？
	ほっこくあかえび（紅えび）（同上）	エビ類はＴＰＰ交渉参加国（ベトナム、インドネシア、インド）が全輸入量の1/3を占めるが、現在の関税率が1～２％と低いため、影響は限定的ではないか？
	べにずわい （輸入実績なし。）	かに類全体では、ＴＰＰ交渉参加国ではないロシアからの輸入が圧倒的に多い。カナダから若干の輸入があるが、輸入品はたらばがに等の高価格のものが多く、低価格のべにずわいがにとは競合しないのではないか？

※　たい類、はたはた、いわがき、さわらについては、鮮度（鮮魚）が最優先されるため、外国からの輸入実績がない。